

第3回 筑西市「道の駅」整備推進協議会「議事要旨」

日時	平成27年8月27日(木) 14:00~16:10
場所	筑西市役所本庁舎2階 研修室
出席者	<p>【委員】</p> <p>岡本 直久 筑波大学システム情報系社会工学域教授 小林 幹愛 下館商工会議所副会頭 大畑 良雄 筑西市商工会会長 鈴木 勝家 筑西市観光協会会長 延山 正 北つくば農業協同組合営農経済部長 高野 雅代 下館青年会議所 総務事務局会計幹事 大畑 清子 筑西市消費者団体連絡会会長 野澤 和子 筑西市地域女性団体連絡会会長 飯山 由美子 筑西地域女性農業士会副会長 角田 光雄 一般公募 江田 彰 一般公募 藤田 幸恵 一般公募 土井 優香里 一般公募 坂入 龍一 筑西市企画部長 菊池 雅裕 筑西市経済部長 渡邊 孝 筑西市土木部長</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>飯田 寛之 国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課長 飯村 信夫 茨城県道路維持課技佐兼課長補佐(技術総括)(代理) 富田 悟 茨城県地域計画課副参事 三田村 剛 茨城県販売流通課課長補佐(技術総括) 檜山 敦 茨城県農村環境課技佐兼課長補佐(技術総括) 村田 是 茨城県観光物産課係長</p> <p>【事務局】</p> <p>深見 正徳 筑西市企画部次長 稲見 博之 筑西市企画部次長兼企画課長 伊坂 保宏 筑西市企画部企画課道の駅推進室長 小島 一夫 筑西市企画部企画課道の駅推進室主幹 大山 智也 筑西市企画部企画課道の駅推進室主任 池田 裕幸 筑西市企画部企画課道の駅推進室主事</p> <p>【コンサルタント】</p> <p>森 隆信 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部次長 萬代 祐介 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部技師 関 詩織 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部技師 芦野 恵 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部技師 大島 恭司 (株)オリエンタルコンサルタンツ茨城事務所</p>
議題	<p>議事</p> <p>(1) 筑西市の現況について (2) 筑西市「道の駅」コンセプト(案)について (3) 筑西市「道の駅」導入機能(案)について (4) その他</p>

■議事(1) 筑西市の現況について

【事務局説明】

- ・基本構想と基本計画の関係性及びスケジュールについて説明した。
- ・筑西市の現況について、沿革や、自然、交通、人口、農業、商工業、観光、文化、歴史について、その魅力や、強み、弱み、課題等を説明した。
- ・事務局説明についての質疑応答を行った。

【主な意見、質疑】

◆基本構想と基本計画の関係性及びスケジュールについて

○(Q) 基本構想と基本計画の関係性の説明について、スケジュールの説明がなかったようだが。

⇒(A) 本日が基本構想の1番のコンセプト、2番の導入機能を整備推進協議会にて協議することで決定している。基本構想の方では、3番の立地計画、5番の整備管理運営手法、地方振興方策については、第4回の推進協議会で協議し、9月半ばから10月末ぐらいまでにはまとめていきたいと考えている。基本計画については、2番の導入機能および施設規模、立地計画、配置計画について、11月から12月ごろに第5回推進協議会として協議をしたいと考えている。【事務局】

○(Q) 施設規模の議論と立地計画の議論というのは、すごく絡み合うことになるが、段階的にやってしまっても大丈夫か。【岡本会長】

⇒(A) 一緒にやっていくようなかたちになると思っている。【事務局】

⇒「前回決まったからこっちはもう変えない」というようなことはしないようにしましょう。

【岡本会長】

○(Q) 筑西市の行政全般におけるあらゆる角度から、例えば農工商、経済問題、インフラ整備等のさまざまな課題を抽出し、それらを基に道の駅をつくるように思えるが、もう少し課題やテーマを絞り込み、道の駅がどのような役割を果たすのかを明確化したほうが、効率がいいのではないか。

⇒(A) それについては、次に事務局案として提示する予定としている。【事務局】

■議事(2) 筑西市「道の駅」コンセプト(案)について

【事務局説明】

- ・筑西市「道の駅」コンセプトについて、筑西市の特徴や最近のトレンド及び第1回推進協議会における委員意見を踏まえて検討及び作成した事務局案を提示し、内容を説明した。
- ・筑西市の特産品であるお米について、お米の持つポテンシャルや魅力を説明した。

■議事(3) 筑西市「道の駅」導入機能(案)について

【事務局説明】

- ・筑西市「道の駅」導入機能について、前述の筑西市道の駅コンセプト案およびお米のポテンシャル、第1回推進協議会における委員意見を踏まえて検討及び作成した事務局案を提示し、内容を説明した。

【主な意見、質疑】 ※議事（２）および（３）について

◆コンセプトについて

- 「市民が育てる道の駅」という観点であれば、市民全員が参加してこの道の駅をつくったという状態にしていかなければならない。市民の関与方法については、市民にどうやってPRしていくかということも含めて、もう少しこれから課題があるように思う。
- 「市民が育てる道の駅」とするのであれば、そのプロセスや方法を明確にする必要がある。市民のアイデアをどのように反映させていくのかという方法がそれにあたると思う。みんなが道の駅をつくっていくという機運をどう出すのか、ということが重要。
- ⇒例えば、農家が農産物を道の駅で売るという仕組みも市民の方が参画していると捉えられるが、それでは普通の道の駅とあまり変わらない。事務局には「市民が育てる道の駅」とは具体的にどういうものなのか、ということを整理してもらいたい。【岡本会長】
- 身近なお米が取り上げられたことは、食育の観点などから非常にうれしい。
- お米のアイデアに関してはすごく良い。お米を使ったクレープやモッフルも良い。米を使用したスイーツは女性に受けると思う。
- お米をテーマにした道の駅は良い。
- お米の消費が下がったということで、食糧庁の方からも米粉を使った料理を推進され、筑西市女性会や農協の女性部で米粉のパンづくりをやってきた。そのため、お米が道の駅のコンセプトになるのはうれしいと感じる。
- お米の案は非常にうれしい。ただお米は全国どこでも作っているため、知恵を出し合って差別化を図り、「筑西市のお米の魅力」を発信する必要がある。また、お米だけでなく筑西市の農産物は、イチゴ、小玉スイカ、梨、露地野菜などが10月末ごろまで品種リレーとして収穫できるため、こういった農産物を絡めて、リピーターづくりのアイデアを考えていく必要がある。
- 地域参加は一つのテーマになると思う。地域の人がここに来て、みんなで何か自分たちがやれるようなことをすると、新規の人が集まってくる。筑西市民は熱しやすく冷めやすい面があるため、自らがそこに参加して、そこでいろいろなイベントをやるのだという機運を高めることがポイントであり、そのためにはまず計画段階から地域の人を取り込むということが必要である。

◆機能について

- 米など筑西市の良いところはわかるが、市外の来訪者からみた場合、筑西市の魅力が他の地域と比較してどれくらいのレベルにあるかということ、正直弱いと感じる。魅力的な道の駅とするために皆で知恵を出し合う必要がある。
- 群馬にある「こんにやくパーク」や大洗にある「めんたいパーク」のように何か惹き付けるものが必要である。
- 自身は妻と道の駅に行くといつも時間を持て余してしまう。筑西市の歴史や文化の展示機能などがあれば、時間をつぶせるように思う。
- ファナック株式会社やセキショウといった茨城県に縁のある企業と連携し、また来たくなるような仕組みを造っていくことも考えるとよい。
- 美味しい食事の提供や、遊具の設置など目的地型や滞在型等にすべきだという委員意見が盛

り込まれているのはよい。

- お米は一つの核にはなるが、スイーツやアイスクリームやパンなど一般受けする商品をどう取り入れていくかの検討が必要である。
- 新鮮野菜を入荷および供給するシステムについて、先進事例等を参考にするなどし、検討する必要がある。
- お米以外にも野菜などの特産品を活用したオリジナル商品について、具体的にアイデアを出していく必要がある。その点について、推進協議会メンバーだけではなく、市民のアイデアをいかに拾い上げるかというところも考える必要がある。
- 広場を設けるとあるが、具体的にどのような遊びをここに持ってくるのが重要になる。足湯なども一例。地域の高齢者がちょっと遊べるような機能は必要だと思う。
- コミュニティ施設には、展示室を設置し、市民が制作した絵画や写真等を展示するようなイベントをやるとひとが集まってくるのではないか。道の駅を赤字経営としないためにもひとをどう集めるのかという仕掛けづくりが重要である。
- 市内の高齢者が手作りした物を売り出すコーナーがあれば、シニア世代の生きがいとなる。そういった市民の元気が生まれるようなアイデアも取り入れてもらいたい。
- 防災機能は非常に重要である。下館の防災拠点には現在運動公園の中に倉庫が設置されているが非常に使いづらい。国道 50 号や北関東自動車道は緊急輸送道路として十分な機能を持っており、防災に適していると考えられるため、道の駅に防災拠点としての機能を持たせることを検討すべきである。
- 女性向けに特化し過ぎず、老若男女が楽しめる施設を、それぞれの層を対象に1つずつでも作っておくことが大切だと感じる。
- コンビニや輸入食など、それなりにおいしいものは常に食べられる状況にあるが、そうではなく、地元産の食材を用いた食事やおにぎり等の軽食、加工品を気軽に食べられる場所があれば市民も使いやすい。しもつけの駅長が言っていた「近くも喜び、遠くも行きまし」。というコンセプトは良いと感じる。普段の生活で、ちょっとどこかで軽食等の買い物しようと思ったとき、コンビニ以外に思い当たらない。また、そういったところでは輸入食材等を用いたお弁当が大半である。道の駅で地元食材を使ったお弁当などが気軽に買えるようになればよい。
- 防災かまどの設置は良い。
- トイレは綺麗なトイレを作ってもらいたい。逆にトイレが汚いところはもう行きたくないと感じてしまう。
- 最近では自分で手を動かすことが好まれる傾向にある。おにぎりを自分で作って食べるということであればおにぎりコーナーのアイデアは面白い。

◆運営者（駅長）のありかたについて

- 現在の考え方は、推進協議会で道の駅計画についておおよそ練り上げた上で、駅長（支配人、運営者）を選定し、やってもらうような考え方だと思う。一方、道の駅「しもつけ」の考え方は、東武百貨店の関係者が支配人（支配人、運営者）として、計画段階から参画されていた。これを踏まえると、駅長候補（支配人、運営者）が参加していないこの推進協議会の在り方がいいのかどうか疑問である。雇い支配人ではガバナンスが発揮できないように思える。

能力が相当高い方なら、協議会で策定した計画を任せるということも考えられるが。

- 運営する人をできるだけ早い段階で参加させ、設計段階にその人のアイデアを入れる。そうすることで、運営がうまくいかなかった場合の理由を作らせないようにすべき。運営がうまくいかない理由として、施設のつくりが悪いなどの逃げ道をつくらせないようにする。
- 現段階では、道の駅の駅長を選出してこの会議に出席していただくところまでは考えていない。構想計画は、あくまでも道の駅を筑西市につくる上で、施設内容や規模、予算といった案について合意形成を図る目的で策定している。しかし事務局としても、できるだけ早い段階で運営者に関わってもらいたいと考えており、最低でも建物の設計段階までには運営者候補を選出したいと考えている。ただし、運営者の立場等も考えた上で、あくまでも、筑西市道の駅における整備が実現化した段階での選定となる。【事務局】
- 駅長については、現段階では、個人を選定するというふうに決定する話でもない。企業に運営を任せるといった方法（指定管理者）も検討のひとつとしてある。ただし、どの場合でも、運営者に丸投げし言いなりになるようなことは望ましくないため、筑西市としてのカラーをいかに出すのか、という点については協議会で検討すべきである。【岡本会長】
- 道の駅「まくらがの里こが」では民間企業が運営を行っているため、スペースを狭められるなど、農協の人の気持ちを理解して貰えないことがあると聞いている。
- 経営母体については、最も懸念されるところであるため、事業者との契約内容や立地場所についてしっかりと議論をするべきだと考える。
- 駅長について、最初からこのひとと決めるのではなく、公募の形をとって論文や面接等で選ぶという道が残されていると推進協議会の思いを引き継げるように思う。

◆その他意見

- 事務局の提案が整いすぎていて、行政側の説明会のように聞こえ意見が出しづらい。
⇒そう感じた方もいれば抵抗感なく聞いた方もいらっしゃるでしょうが、あくまで事務局案は提案であってこれを押しつける意図はありませんので、この案に対していろいろな意見やアイデアを出していただければと思う。【岡本会長】
- 内容から、前回の委員会での提案は事務局案に盛り込まれていると思う。しかしながら、事務局から前回の委員会での提案がどれだけ盛り込まれているのかの説明がないため、議論がしづらくなっているように感じる。こういう案があったがどうですか、というような進め方をしてもらいたい。
⇒事務局では、委員の皆様の意見やアイデアをまとめており、それを反映して案を作成している。しかしながら、全員の意見をすべて反映させることは困難であり、まとまらない提案になってしまう。そのため、事務局に対してこれだけは譲れないという意見や、事務局案に対する発展的なアイデアがあれば述べていただきたい。【岡本会長】
- 道の駅は、5年後の開業を予定しているが、資金の問題や時間的なスケジュールを検討した結果、それだけの期間が必要だということか。茨城国体に合わせて計画を1年前倒しし、4年後に開業することはできないか。
⇒5年としたのは、道の駅を整備するに当たり、事業認可の申請を予定していることから、農地転用等の課題が想定されることや設計期間等を考慮しているためである。ただし、半年くらいであれば開業を前倒しできる可能性はあると考えている。【事務局】

○下館商工会議所では「道の駅委員会」を立ち上げた。今後は委員会での意見を集約し、推進協議会に提案していきたいと考えている。

○「こういうことを道の駅でやりたい」というテーマを決めていく中で、実現するために必要な規模がどれくらいか、ということが大きな条件となってくると思われる。資金や隣接地など、様々な要件や課題を踏まえ、調和と収支の取れた道の駅としなければ長続きしないと思う。立地条件に合った施設内容や、道の駅を核としてどのように市内の回遊が形成されるかということも検討が必要である。例えば、人の流れをつくる手段として巡回バスの運行など。

○立地場所によって、道の駅の考え方が異なると考えられる。大よそでもよいので整備候補地を教えてもらいたい。

⇒機能等がある程度決まらなくては必要面積がはっきりしないため、場所を選定するのは難しいと考えている。50号沿線ということは想定している。【事務局】

○道の駅の立地に関して、50号沿線に接していなくてはならないなどの制約はあるのか。

⇒県道や国道など、道路に面する必要はない。ただし、一体型の整備の場合、休憩施設、情報施設およびトイレ等の建設費について、県道沿いに作ると県が負担することになり、国道沿いに作ると国が負担することになるため、道路管理者との協議も必要となり場所についてはどこでもよいというわけにはいかないと思われる。【飯田オブザーバー】

⇒次回では、立地場所について検討していきたいと考えている。【事務局】

○50号線は「しもつけ」と比較して交通量が少なく通過点になりがちのため、集客などを工夫して特徴ある道の駅にする必要があると思う。

○後継者を育てることについても、それなりの施策が必要だと思う。

○視察をしてもアイデアをまとめることができなかったが、事務局から具体案を提示してもらうことで、改めて具体的に自身でも考えることができるようになった。

○観光客は、一般的に、東京を中心に、北の方へ遊びに行き帰り際にお土産を買って帰ることが多い。そのため直売所などの販売施設は人の動きが多い南北のラインに作るのが一般的。しもつけなどは場所が良い。客が自然と寄ってくる場所である。もし東西のラインにつくるとすれば、まずは、集客をどうするのかリピーターをどうつくっていくのかを考えるのがいちばん大事だと思う。

○コンセプトについてはよいが、資料の量が多いため事前に送ってもらえると議論がしやすいと考える。

○会議内容を市民に知ってもらい、みんなで作っていることをPRする必要があると思う。道の駅整備の進捗状況を市内全戸へ配布するといったことをやる必要があると思う。その中で、市民のアイデアを募集したり、今の検討状況について常に問いかけをしたりし、対応することが大切ではないか。正しい情報を発信することと道の駅のファンを増やすためにもみんなで作っているというイメージを出していき、市民がアイデアを出してみようか、参加してみようかという雰囲気を醸成することが重要。

○観光政策の拠点となるような視点も加えてもらいたい。

◆PR方法、情報発信について

○「花農場あわの」ではメディアを活用して集客を行っている。筑西市の道の駅でもメディアの活用を考えるとよい。

- 小山の道の駅（思川）では、車に流れているものと同じラジオ放送を道の駅内でも流し、来訪者にも聞いてもらう工夫をしている。インターネットテレビなどを道の駅の広報に利用するのもいいと思う。
- まずは情報発信をしてリピーターを取り込むことが重要である。何等かの手段で1回でも来てくれた人に対し、イベント実施案内などを発信したほうがよい。
- モニター（映像）の活用方法として、地元の野菜やコメを使った料理をレストランや料理教室で食べてもらい、その様子を映像で発信したり、道の駅に車を置いて周遊できる周辺スポットの情報を映像で流したり、といった発信ができるのではないかな。

◆まとめ

- コンセプトの「市民が育てる」は具体的に表現できていない。特に経営母体との話と両立させていくことは難しいと思われるため、整理が必要である。
- 視察でみた道の駅のように、経営能力のある運営者が、ある程度の力を入れて運営を実施しないとうまくいかないこともあることは認識できるが、どこまで運営者に任せるのかというところについては線引きができるようにしておかなければならない。
- 委員のほとんどがリピーターというキーワードを出されていた。リピーター獲得の手法は体験だけなのか、または、ほかにあるのか、例えば今日出されたアイデアについても、リピーター獲得にどうつながるのかというところを掘り下げていく必要がある。事務局にはリピーター獲得の方法についてキーワードを整理してもらいたい。また、リピーター獲得のための具体的なアイデアについては、実現性についても検討していく必要がある。
- 地域参画については、対象は、筑西の市民だけなのか、他市町村も含めた50号線沿いの地域なのか、茨城県西部地域全体のことを指しているのか、そのあたりを踏まえ、地域という言葉に対しても少しイメージを持っていただくと、道の駅で何を情報発信すべきか、観光の入り口を目指すならば周遊対象はどこなのか、筑西市をメインとした観光ルートとしてどのようなアイデアが考えられるのかが見えてくるのではないかなと思う。これについては、鈴木さんに観光分野として現状の取組などをご紹介いただいたほうがよいかもしれない。筑西市だけで頑張るのではなく、他の地域のいいところを持って来るといった発想もあるのではないかな。
- お米というアイデアは良いと思うが、スタートした5年後にあるべき姿や10年後の理想の姿など、もうひとひねり考えることも必要だと思う。10年後を描くということではなく、こういう風に育てると将来的にどういった姿になるか、というスケジュールのようなものも見せてもらえればと思う。
- 道の駅のスタッフの人材育成も大切な検討要素である。スタッフだけではなく、筑西市民全員が来訪者を迎えるにあたり、おもてなしについて考える必要がある。道の駅をきっかけに市民がおもてなしについて考えることはとてもいい機会であると思う。そういうことも含め、人材育成についても整理し直していただきたい。
- その他のキーワードについても、皆様から出たものについては、事務局できちんと整理していただき、次回は、皆様の意見がどのように反映されたのかわかるような資料に基づいて協議会を実施するようにすればよいと思う。
- 防災拠点としての役割については、最低限具備すべき機能なのか、目指すべき機能なのか等の分類を含め、内容についてきちんと整理する必要がある。

○滞在型というキーワードについては、川場村の事例等を参考に情報提供いただきたい。

【以上、岡本会長】

◆経済部部長意見

○経済部では、近々委員会を立ち上げ、筑西市農産物のブランド化を推進するべく進めている。推進協議会にも情報を共有し、ブランド化推進について道の駅に役割を担ってもらうことなども含めて考えていきたい。

○米については、筑西市は県内第一の生産量を誇っていることから目玉になると感じている。上平塚のほうで、米粉で麺をつくり実際に販売しているところがあり、農政課でもPRしているところ。活用を考えていきたい。また、米だけでなく他の農産物のPRもしっかり考えていきたい。

○来てもらう努力が必要だと考えている。来訪者の期待を裏切らないことがリピートにつながるため、マンネリ化の回避を、コンセプトを考える上でいちばんのポイントとしたい。

⇒マンネリ化を避けるためには新しい商品を常に提供していくというような工夫が必要である。ブランドというものは輝くひとつのものだけを指しているのではなく、いろいろな要素の組み合わせでもって成立するという考え方もある。筑西市でも、どのような形でNo.1ブランドを目指すのか、戦略が鍵になってくると思う。【岡本会長】

■議事(4)その他

○次回の第4回協議会の日程は、10月6日火曜日、14時から、今日と同じ場所で予定する。正式な案内通知は整い次第発送する。

○次回の協議事項は、今回の宿題を踏まえたものに加え、立地計画、整備管理運営手法、地域振興方策等ということで予定する。

○協議資料については、事前に目を通せるように、前もって送付する。

以上